

平成27年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）実施段階

学校経営方針		昨年度の成果と課題		本年度学校経営の重点	
生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として、共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。 このため、教育目標や教育方針に基づき、数理科学科・普通科・芸術系が、それぞれの特色や持ち味を生かしながら、切磋琢磨し、学校の活性化を図ります。 特に、次の3点を学校経営の基本方針とします。 (1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化 (2) 社会的自立を図るために必要な能力の育成 (3) 地域・保護者に信頼される学校づくり		スクールマネジメント 昨年度の成果(○)と課題(△) ○授業内容の質的改善・充実 授業改善が進み、生徒の授業満足度が向上 家庭学習時間は増加しているが、改善が必要 △国公立50人以上の合格 国公立は33名。関東方面への進学者が増加するなど、チャレンジする生徒は増加 ○グローバルサイエンス事業を通じて大学と連携した取組が充実 京都大学・京都工芸繊維大学・京都学園大学との連携した授業の充実 ○芸術系の取組の充実 伝統文化フェスティバルへの出品、小学校との連携など特色ある取組が充実 ○「社会に通じる人」を育てる あいさつ・遅刻・身だしなみなど規範意識の向上 CAN-DORリストの活用の工夫		(1) 授業内容の質的改善・充実 生徒が主体的に学び学習意欲を高める授業の創造 (2) 高い目標へとチャレンジする生徒育成(国公立50人プロジェクト) プロジェクトを実現するための組織的・系統的な進路指導の充実 (3) 規範意識の向上と社会性の確立 遅刻・服装等に対する校門登校指導の徹底と継続指導の充実 (4) 部活動の活性化とあいさつ運動 (5) 人権教育活動の推進(あらゆる教育活動に人権の視点) (6) 広報活動の徹底(本校の教育内容の周知と理解) 特にホームページ・メール配信の迅速化と内容の充実	
評価領域	重点目標	具体的方策	自己評価	成果と課題	評価 A 十分達成できている(目標以上の成果が得られた) B ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた) C 達成できているとはいえない (成果はあったが、目標に達していない) D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)
組織・運営	魅力ある学校づくりの取組	学校改革の推進	C	今年度は昨年度までの改革の成果を見守った。	
		国公立大学50人プロジェクトの推進	C	模試分析の充実、地方国立大学の現地視察等、新たな取組で、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導を試みたが、受験者拡大に至らず50人合格は達成できない見込。理系を中心に国公立大学選択の幅を広げる意識づけ、推薦・AO入試対策の強化が必要	
		普通科における特色ある取組の充実	B	美術・工芸専攻における特色ある取組は充実している。他の普通科の特色化が課題。	
		数理科学科の充実	B	グローバルサイエンス、土曜スマート研修、ガム研修旅行での現地校交流など、理数系専門学科としての特色ある取組は充実している。進学実績、募集実績の向上が課題。	
		広報活動・学校説明会の充実	C	積極的、戦略的広報が必要である。	
教育課程・学習指導	確かな学力を育てる教育	高大連携の推進	B	進路指導部・数理科学科を中心に連携は深めることができた。	
		生徒の希望進路を実現する教育課程の検討	C	昨年度に決めた変更の年次変更中であるため、今年度は変更の検討を見送った。	
		学習意欲を高める授業の創造(授業評価の向上)	B	一部ではあるが、アクティブ・ラーニングの導入等、積極的な授業改善が見られた。	
		家庭学習等主体的な学びを促す指導の充実	B	土曜講座、家庭学習倍増計画等により家庭学習の定着に改善が見られた。	
進路指導・キャリア教育	チャレンジする生徒の育成	読書活動の推進(図書館活用の促進)	B	1年生の貸し出しに課題を残したが、全体的には読書活動は活性化された。	
		組織的・計画的な進路指導の充実	B	計画的な進路LHRが実施できた。卒業生や上級生の経験談を聞く機会を新たに設定したが、モチベーション向上に効果が期待できる。	
生徒指導・人権教育	豊かな人間性をはぐくむ教育	CAN-DORリストの実施と活用の工夫	C	CAN-DORリストへの意識付けを十分にできなかった。	
		基本的な生活習慣の確立	B	挨拶・身だしなみ・時間厳守等の基本的な生活習慣は定着してきた。	
		確かな倫理観に基づく規範意識の確立	B	ルールを守る意識は確立している。その基盤としての倫理観の醸成に努める必要がある。	
		特別活動・部活動の活性化	A	積極的な立候補のあった生徒会活動や、高い加入率を達成した部活動とも活性化している。	
		情報モラルに関する指導の充実	B	生徒会が作ったSNSルールを積極的に活用すべきであった。	
		いじめを許さない学校づくり	B	ネットいじめの教員研修を実施した。いじめを見逃さない不断の課題意識が重要。	
環境整備	安心・安全・健康的な環境	教育的配慮を必要とする生徒への対応の充実	B	教育相談会議、特別支援教育会議等を通じ、効果的な連携がとれた。	
		健康・安全意識の向上	B	自転車点検や安全指導をステップアップし、昨年より事故が減った。	
情報教育・国際理解教育		美化意識の向上と清掃の徹底	B	清掃活動にはよく取り組んでいる。部活動によるボランティア清掃活動も盛んである。	
			C	国際理解教育の意識づけでは課題を残したが、一部に積極的に海外留学にチャレンジする生徒が現れるなどの成果はあった。	
学校関係者評価委員会による評価	学校の自己評価は、やや辛めの評価になっているのではないかと、「国公立50人プロジェクト」について、国公立の数字にこだわらなくてもよいのではないかと。私学への進学実績等、頑張っているが、この項目立てでは「C」になってしまう。中学校や地域住民の立場から、身だしなみ等、良くなったと感じている。今後、広報の充実、倫理観の醸成により力を入れてほしい。				
次年度に向けた改善の方向性	・部活動や生徒会活動の充実など、生徒の自主性の育成については今後とも力を入れる。 ・キャリア教育の充実により、生徒が将来を見据える力の育成に力をつぐ。 ・上記事項で培った自主性や将来を見据える力を礎に、生徒が希望の進路を能動的に自ら勝ち取る力につなげる。 ・学校HPや中高連携等を柱に、広報活動を充実する。				